

高等部教育目標	
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う	
探究型カリキュラム教育/学習目標	
SDGs の達成を目指し、Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける	
探究型カリキュラムにおける 5 つの学びの方針 Five Principles for Learning	
1. 自分事として <オーナーシップ/一人称>	2. 社会/実践を通して <PBL 型/アクション>
3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心>	4. コミュニケーションを通して <自分/他者のやりとり>
5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性>	
上位学習目標	
<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で用いられている AI 等のテクノロジーが持つ機能や役割、実例などの基礎的な情報を自分の言葉で説明することができる ・簡単なプログラムを使って実際に AI を動かすことができる <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的課題について調べ、AI 等のテクノロジー活用した解決方法を提案することができる ・AI が人々、社会にとって正しく活用されるための倫理的判断をすることができる ・テクノロジーが人間個人、社会に与える影響を考察することが出来る ・上記事項について、他者に適切に提示/説明することができる <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI や新たな技術開発、イノベーションについてより深く知ろうとし、それをういて解決しようとする姿勢を持つことが出来る ・社会的課題に向き合う中で、AI などに代表されるテクノロジーと上手に共生する必要があることに気づき、人間の本来の生き方について追求することができる 	
下位学習目標	
<p>【知識・技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① AI とはどのようなシステム、プログラムで成りたっているのか。AI についての概要を説明できる。 ② 社会で利用されている AI の活用例について知る。 ③ AI に関係するプログラミングについて学び、操作できる。 <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① SDGs の到達目標達成のため、身近にある解決すべき具体的な課題について現状や原因などを総合的に述べる事ができる ② SDGs 到達目標達成のため、身近にある解決すべき問題の解決策を考えることができる ③ 解決策において AI の特性を理解して解決策を考えることができる ④ グループの考えを他のメンバーにわかりやすく示すことができる ⑤ 他のグループや個人の意見に対して、本質的な質問や議論ができる <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 個人の考えをグループで共有しグループとしての考えに昇華・統合できる ② AI の利用により発生する倫理的問題について理解し、本質的な議論や対策の検討ができる。(自由やプライバシー、人権などの概念との関連性) 	

授業日	1/23(火)	3 学期授業回数	2 回目 / 全 5 回
本時 学 習目標	主なターゲット【知識・技能】①②③ 【思考力・判断力・表現力】①②③④⑤ 【学びに向かう力・人間性】①② 本時の具体的な目標 ・ピア・ティ칭ングへの準備を通して、これまでの学びを言語化して資料としてまとめることができる ・この準備を通して「AI 活用」の学びの内容、学ぶ理由、目的を適切に説明できる ・他の探究授業の生徒とどのような意見交換ができるか考えることができる		
時間 授業内容	10 分	ピア・ティーチングの目的と企画書作成について意識すべきことの説明	
	90 分	各班ごとにピア・ティ칭ングで伝えるべき内容のテーマ、発表形式、時間配分、役割分担について企画書の作成 発表順番の決定	
評価方法	次回の授業にて企画書をもとに、各班ごとに発表内容について報告を行い、互いに疑問点や問題点について指摘を行う。その過程での気づきを学びの記録で提出させて評価する。		
宿題指示	前回より具体的な内容を記した企画書の提出(各班ごと) 2 年 AI 活用 2024.1.23 ピア・ティーチングの企画書について <前提> ピア・ティーチングとは…生徒どうしで学び(教え)合う学習方法 今回の目的 ・これまでの学びを、 言語化 し、それぞれの発表形式に合わせ、 資料 としてまとめる。 ・異なる研究をする人たちに対して、自分たちが行ってきた活動の 内容、理由、目的 などを適切に説明すること。 ・異なる視点で研究をする人たちの発表を聞き、自分たちの研究の参考となる新しい視点を得ること。 ・積極的に意見交換を行い、凝り固まったアイデアを払拭すること。 →<意識すべきこと> ・これまでの学びを振り返り、何を伝えるのか(具体的な知識なのか、考え方なのか、考える姿勢なのか etc...) ・それを伝える意味、これについて学ぶ意味、なぜ学ぶのか ・共通点は「探究」 学び方にも意識を向ける ・知識や目的、意味などの伝えたい内容を効果的に伝えられる方法 ・"積極的に意見交換"という目的を組み入れる ※より具体的にいうと… 単なる AI 関係のキーワードの紹介だけでいいのか、"AI に支配される"という表現はふさわしいのか、"AI による社会の変化"についての自分たちの考えは正しいのか、などを考える必要がある <企画書の内容> <input type="checkbox"/> グループとして伝えたい目的(なぜ学ぶのか) <input type="checkbox"/> グループとして伝えたい内容(どんなことを伝えるのか) <input type="checkbox"/> どんな方法を用いるのか…プレゼン/ポスター/ワークショップ その方法を採用する理由 <input type="checkbox"/> 構成・時間配分 <input type="checkbox"/> どんな資料を用いるのか <input type="checkbox"/> "意見交換"の取り入れ方		